兵庫名所記

上下

ル 4
2901

序

余看遼和於坊亦之次有亦兵庫名所記者閱之雖亟憂不交於一州其畫中有出川江海辺有曠野邨落也亦神祠梵宇廢宮荒墳森森亦既多哉將以區別乎方程按計乎故事若夫貴客之歌章騷人之詩賦及山翁漁父之談閭巷傳聞之語共收並貯已既而採之不得不廣則載之亦不能不冗也然裁制

佐藤藏書

之互最得觀而潔予嘗遊於其地目擊厥二三焉今之按此無索之則不賴縮地之術而曉然乎几席之間美矣吾子勤焉且夫家務煩擾之餘殘來會晤之徒兼非療倒杯酒波惑榛梧浪度日之支唐而尚於此好事苟可調有所用此而不徒消國者哉矣

寛永庚寅端五日　州澤醫生識

凡例

一初丁に大概の摠圖をして最方角を引

一上乃巻ハ兵庫名所を先うて民北乃方西之宮まで五里の間且く又廣田より上神崎を乃志るべよ蓋湊川古跡を同巻の末に追加

一下の巻ハ兵庫より南西のハ播磨國の境川まぐ行ハ凡二里名所田畝ゆて海岸

一名所の古歌猶集うゆ出し載るこれハその数多し一二首宛是を

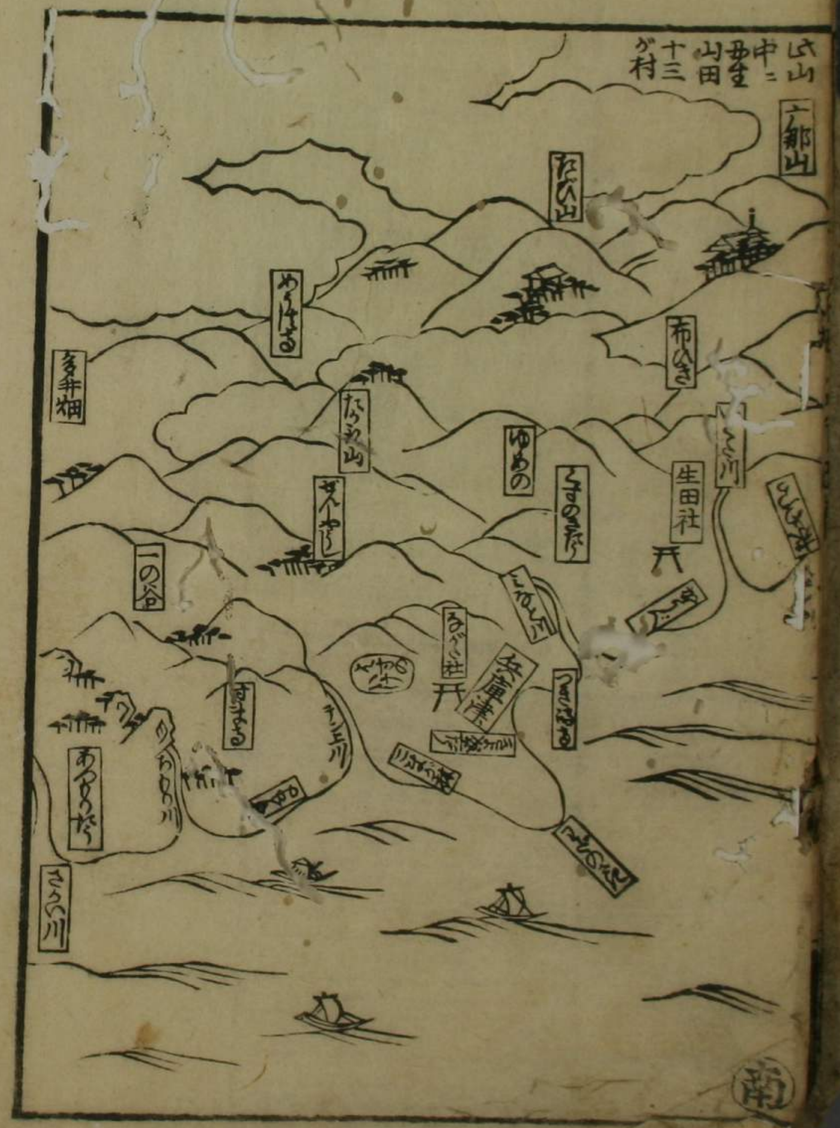
一所これ多数と積ゆ兩の巻後丁に集む亦法乃法も附ゆう

攝津　故老俗傳云天探女神天磐船ニノリ此國ニ

攝タル高津ノ号ヲ取テ攝津ノ國ト稱ス亦漢書云攝然下レテ天下安云云字書云攝ハ靜謐ナリ兩儀相共ニ要津ノ連續ニ取テ大上國トス上管十三郡所謂

一西成　一住吉　一百濟　一東生
一武庫　一島下　一豐島　一川邊
一兎原　一島上　一八田部今畑田部三字ニ作一能勢
一有馬

以紀の郡ハ矢田部郡兎原郡乃二郡ハ又武庫川ノ名ニのあ郡ハ内を加ル



兵庫名所記巻之上目録

一 福原都の事 ○並ニ地形の事
一 来迎寺 ○もさき嶋の天宇
一 若狭守経俊塚
一 小宰相の局石塔
一 雪見の御所
一 鵯越
一 安徳帝假皇居
一 楠正成塚 ○石碑図
一 宇治川
一 築島の由来 ○経の島
一 佐比江
一 湊川
一 みすゝ山
一 菱野村 ○永室のおちう
一 天王谷
一 遊方塚
一 廣嚴寺 ○楠正成ゆらい
一 再度山大龍寺 ○蛇谷

一神戸村
一河原兄弟塚
一生田大明神
一梶原井
一北野天神
一布引の滝　○日寺
一小野坂　○月崎
一生田里
一摩耶山忉利天上寺
一船寺六幡
一花熊城跡
一生田森
一散梅　○敦盛萩
一塚ケ口印石
一生田川　日山池海浦磯
一砂子山
一駒馬の浦　○日濱
一同若菜
一求女塚
一弓弦羽嶽
一御影山
一鵜原住吉社
一山路遺跡　日湯
一葦屋里　日洋沖浦海
一湯元の薬師　日松
一阿保親王御廟
一御前沖　日濱
追加
一廣田社
一鷲林寺
一御影森　○雀松原
一灘田浦　○五百濱
一林元稲荷　○おどり松
一夜鳥塚
一打出村　○金津山
一宿河原
一西のこや　あびす氏住
一武庫山　六甲山
一感應寺

一角の松原
一鳴尾浜　里
一小まん浜
一琴浦明神
一雛波の里
一大物の浦
一長洲村
一津戸村
一おしてや
一武庫川
一猛名
一堀江
一浦の初鳴
一神崎

兵庫名所記巻之下目録

一福海寺
一真福寺　○さうセ川
一遍上人塔　真光寺
一清盛石塔
一渚沙の八江
一萱乃御所　樓御所とも云
一薬仙寺　長谷観音
一灯篭堂
和田明神

一福厳寺　○自然居士の井
一二本松
一和田の笠松
一びゝ法ら
一八揀寺跡
一月見の法所
一魚入瀬堂
一千僧寺跡
一和田のこさ記　昆陽入江渡り

一大和田の浦
一本間遠矢
一延喜山
一匂ひの梅
一源五塚
一長田大明神　○円聖
一蓮乃池
一鑑後沈ら
一妙法寺　○車村矢拾地蔵
一淀の浜橋
一兵庫古城
一内裏屋敷
一真野の池　浜橋里海浦
一通盛塚
一苅藻川
一明泉寺
一西代村　○セツ井
一禅昌寺　○鷹取山
一二葉松
一忠度塚

一源人松
一勝福寺　○大手村聖天権現
一因幡薬師　○稲葉山
一磯馴松
一鏡ヶ池　多井畑
一腰掛松
一若木櫻　○漢竹
一須磨乃関屋
一一の谷　○ひよ多越　○鉄楊が峯　○鐘ケ松
○安徳天皇行宮陣所　○坂ヶ
○巌石
一飛松
一月見の雲
一光源氏古迹
一行平松
一網敷天神
一須磨寺　天宝付
一うの山

一上野　○二の谷　○三の谷　○鉢伏ゲ峯　○日の山峯

一敦盛塔　一須磨の浦　○こすり江　○ちり川　○樵路ノ

一境川

一山田の旧跡　二ケ所

一兵庫十景ノ題　一須ノ乃浦十景ノ題

一福原観音札所名目　一所〻年積　上下後丁ニ記ス

一兵庫より他方道法

兵庫名所記巻之上

一福原都の事

柳原清盛ノ邸　矢田部郡　湊川　兵庫ハ應保年中に築港成就して後平相国清盛入乃浦の海辺に院ノ御所を建て治承五年六月二日人王八十一代安徳天皇今年三歳一院上皇拝殿をうつしたまふ古殿大伽藍ハ月卿雲客平家みいきを以て乃ち初一門の人〻を外百姓人民しくを山嶺の宮平安城の後世の人池大納云牧蕃乃山庄皇居成高倉宮ハ同九月新御所成

ゑべさとて上総ハ徳大寺の左大将実定上洛し
宰相中将通親奉行ありの皮夫を召てくゝり和田乃れ永盛をてんじ九
城乃北の刎ゆの志ゝ一条よりみ条さいゝ
てをゝ北ゝ公はまらく金義ゝうごを百
姿の政事行まで伝くゝ又変改あるとて同しき
九月十一月廿一日田新より還幸ゝ改入乃ち
此度ゝ志ゝく行ゆの
○後鳥羽新帝の業源平盛衰記ゝ云ハい神的
釜殿生田廣田西乃ゝ吾妻と並ゝ平代の
志ゝとして雀の松永清乃れ代ゝ志ゝ恵縁あり

もゝ井小路ゝ有ゝ乃ゝ白玉岩間ゝ流乃ゝ
ハ波ゝ乃ゝ白ゝと接む暁乃嵐の漠ゝ
蒼海乃天を染ゝ
漫ゝ
眺望煙波ゝ眼を遮り月の乃ゝ
波路清ゝ山ゝ
いづゝもゝ
一 築港の事中
志改大平清盛公ハ兵庫の浦ゝ上下
乃雑変おゝんゝ為ゝ
て清ゝ築ゝ

うつのみやく元の書海と云て同三年三月下旬
河波氏新成良を伴ひて薬ならに又南風をうけく
急白波をうてこそ又海を渉うるかうり波は成敗なるべし
故小治の怖畏阿倍の泰氏をたく問るに天文地理の
妙術をふくまぎれも考やけり氏治通例みてあり
がて人柱を入く薬しめおひ成敗すべきこそに
依く嵩宝生田の小社に国とすへ往来の旅人をかるめ
捕へしにや新治郡〜家より平出の家童に松を児
童いまだ成人の歌くを我一人山伯
に入を食に若んと撰白馬に白鞍おき平泉海内ふ
りしこうや長く又物のうを一切絶と書〜服分て

海底へ入〜遠へ龍神波更をるあやくを海法ゆ
ゆく此伯成敗して往来の新乃恐ゆく家の家代
の規模へ分る依く絶乃伯とぞ名付うり又薬害
奥立の事 義安三癸巳年ともいの里

一 薬治寺

今兵庫町家の内東海だらにて
浄土西山流紀州高山寺遠ると号も平清盛公第剣
ゆり應保元〜七月十三日治倍春あり往昔い七堂伽
藍の石場ゆり〜と建武の法破却すちよ〜卜伯

一 ゆ堂阿弥陀 あきんの作 一観音堂 和田岬海底より

○霊窟

一人柱の出彩 松三十七さいの木だう 一清盛焼の出彩 五十七歳乃河 自分の法

一縄乃釈加 憍曇弥髪すじ

一梅の実よ仏薩彫刻の像

一弁財天像 弘法大師作

はか什物おく

一縄乃橋

義助法師の墓氏そよりも西へ落ち

一伏比江

兵庫小浜へ

後撰

よを絶くふこりくにあさひ〳〵ふるもも苅あく今そ絶へき 慶

一若狭ち車絶後塚 右さひへのつ〳〵さ下れ木のも

義永ち井一の谷合戦落城乃日形和の右命に対ち

一漆川 兵庫小の出口門より一丁余街乃の川

千載

みをし川岩ち井清出ち近風ふ麻の麦今へ漁戸渡ち乃

夫木

漆川いらり上波ち乃くりつきあくいまて渡る月西れ

一小宰相の局入水　漆川の上鳥京村に成る間にあり
はたそれ〇〇八越前の三位通盛乃妻京形部の紀伊範頼の女く
通盛二の岩ふく付きをの〇を敷き寄水三月二月十四日
紅よりをなげ果ての石塚の石塚を
たて今に古歌をなをる
一漆山　川乃ふもとの
みなと山ここと小浜ちかい風小絵浦の松い波やからん　徒大石
一雪乃人の清所　御乃ふる山のを漆山すそにを
極京松の三尺清盛公雪見の亭と並ぶ乃旧跡
一闘鶏野　一名八兎鍬地
今美神村と云兵庫ゑ十丁なる
漆に一村ゆる

○氷室を始く作まつりし事は乃上より
紀ひろ村さは不動室の始をくはしくもつたへ
らるゝ也のひむろは古紀に詳なり

注けの井に大宮ゐさゝ不動室冷を絵せられけ
いかへの注けの井くは猪を祀りや氷室にかへ
日本紀曰仁徳天皇の御宇の時宇治田中長皇子闇鶏皇
に猪しを祀りし附皇子の宇治田中長皇子闇鶏皇
注曰稲荷大山まと白く同名なる氷室と皇子
のいとくはさはひる事いとん又俗ゆうもも稲荷の
いとくは上を掘く丈余より事とりけくこのうへにおが
ぬく敷茅萩を志らさこりをいくくを上よりおきすで

小夏月を絶く津ぢを放よすゆうち難身にあ
しけく湯みひろ氷室と称ひ所なる天皇ようひあひ皇ようを猪
来りを始ひ注所よりを天皇ようひあひ皇ようを猪
季のそにはりてそうみひろ氷室を納めまつれ
にいりそ氷室をひろ氷室をもより
まつり

山家集
夫木
雲おもはねさうにそ表ゆ蓋神こ森たかく山ゆん 西行
食ゐ忌と俺らんゆうは室の夏野の森はもあにるく 長朋

又日本紀云仁徳天皇秋七月八田乃皇女と言る
まつ海ゆく避異ゆうとき毎歌注げ井より森の吉ゆも
この歌さゆりにしてなのりれく堀屋ゆ井にあにく

麻呂が名さえつぎて天皇に后よ[illegible]のゆへらと[illegible]
[illegible]の奇しきこゝろ[illegible]いはしく猪名の縣の佐伯部直
を献じて天皇に猪を[illegible]て問ひたまへば牡鹿ありて奏も
いでくれば麻呂ごとく兎餌の如く麻呂ありと申す天皇とうるこび
給ふ[illegible]まうりとゝ心ちよく后よりてせのひ朕この比
りの夢ひ[illegible]麻呂の毒を中くく獣にと大なる蛇ありて
依但馬ど安藝れ国淳国へ流しゆへ
又猪名より菅一人ありけるげ世にこゝろめ菅の根ぐさ
にこけばうるはれ菅の面小男麻呂ちがひきゞ牝麻呂
云このひ我背に霜のうつりよと菅とうしたれ[illegible]と
いひれば女ぎうれいつゝ[illegible]ばう[illegible]ばりくに

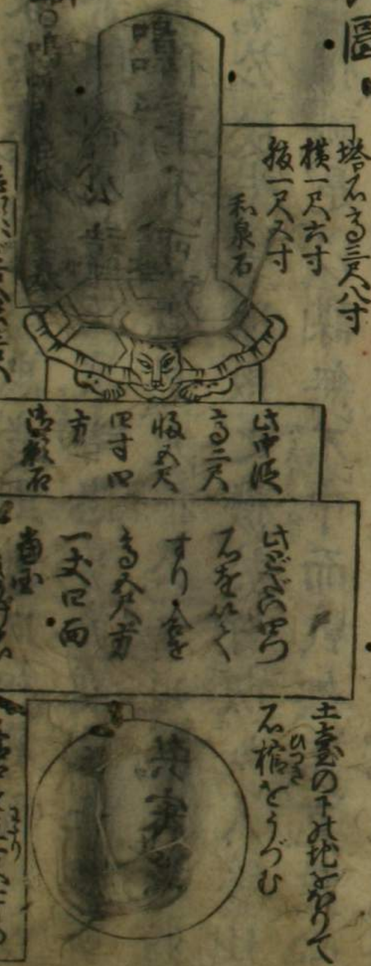
[illegible]く皮なとさ嗅よまうきんと云く麻ハおうて[illegible]
りり不思議よりひ臥よりり思ハつけてくれば射立ちる
猪人ハ[illegible]を射こ[illegible]ば[illegible]とくく嗅寄ぞ[illegible]ける
こそそよりつげ和を義野とゝ
○又淡路の国野島に[illegible]人麻呂の幸[illegible]桜津国土記に曰
一鵜城　兵庫より[illegible]
播磨の国三木郡山へ[illegible]一の岩[illegible]揚げ峯乃半腹
ゆより南ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ぞ[illegible]ぞ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]

一天王谷　兵庫より半里程北有馬温泉より
ゆきかよふ谷より谷口より午頭天王の宮あり祭禮
薗の宮祢・素盞嗚尊・牛頭天王・八王子・稲荷の宮・
六里だより山をくだる

一安徳天皇御陵　蒲田村くまうのうへ兵
庫より八丁ばかり・御陵所・新造の御陵・
大納言・参議の墓・墓の山を乃ぼる

一差方塚　蒲田村小東畑の中に塚・高サ六尺
治承四年六月九日福原新都の頃大納言國
綱・右馬頭・清経・此所にて薬を呑より死す
墨田裏を造らまりとみり

一内判官楠兵庫より小徒たの上に坂なし村
塚・楠木の二本あり・中住吉ハ
水戸
黄門光圀公古墳とさいとうにて碑石を建る
其圖



忠孝著乎天下日月麗乎天地無日月則
晦蒙否塞人心廢忠孝則亂賊橫尋乾坤反
覆余聞林公諱正成者忠勇節烈國士無雙
蒐其行事不可概見大抵公之用兵家強弱
之勢於幾先洞成敗之機於呼吸知人善任
體士推誠是以謀無不中而戰無不克誓心
天地金石不渝不爲利回不爲害怵故能興
復王室還於舊都諺云前門拒狼後門進虎
廟謨不藏元兇接踵構殺國儲傾移鍾虡功
垂成而震主策雖善而弗庸自古未有元帥
妬前庸臣專斷而大將能立功於外者卒之
以身許國之死靡佗觀其臨終訓子從容就
義託孤寄命言不及私自非精忠貫日能如
是整而暇乎父子兄弟世篤忠貞節孝萃於
一門盛矣哉至今王公大人以及里巷之士
交口而誦說之不衰其必有大過人者惜乎
載筆者無所考信不能發揚其盛美大德耳
右故河攝泉三州守贈正三位近衛中將
公贊明微士舜水朱之瑜字魯璵之所
撰勒代碑文以垂不朽

右碑文十行跋文二行都合字數三百十字也

円雨露の覆ハ瓦葺三間四方也

一菩提所　　坂ケ村西ごうにあるなり

醫王山廣嚴寶勝禄寺と号せ後だいご天皇位勅願

開山燈惠法師和尚筆剣ケ岳茅沢ヶ来堂と称せ殿

稱せ　　の彩像ありひと一代記あり

○元建武三年丙子五月念五日

○開山明極禄同九月念七日と尚もれおき連板

ひと書せ

[illegible]

七十三人自害と云ふ成平三案

○廣嚴寺小来ひと大悲山安養寺とやて貞享ひ中

尚新法修せ法廟おは美抗ち

一宮治川　　芸藤ケ八丁小御所の小川ケ谷上毎り

宮治ケ村ケ谷ケ中文村とやあり

一再度山大師ある　　芸藤ケ小ようのぐら岳ケ谷ある山

坂ケ谷宮治ケ村く　　ケ帝ケ年ケ

△ケ老ケ此意梅檀寺　　ケ法寺あり

称尚山ある始ケ尼山と称徳帝の法宇神後素雲二

年亜相和氣清麻呂小ケ基信ケ一刀三

礼の此ケ梅檀寺自ケ三の像を造りて開剣ケ法ハ

又延暦年中に弘法大師ケ山ケ来ケ法の

事と称ひ入唐し給ひ天竺より新羅に渡り給ふ海路
船あつく大同寺弁てふてび老山あり再度ゆへ
ヤまを海大比丘尼寺の中奥の岡紙とあり海と三月十八日
佛舎なりとく法人稚ゝ示し
○観音三ヶ所私判友伝流長立部先寺鎌倉の西へ
為ゝ新の嘆ゝ去年記よ也
一蛇谷　日山間よりあり
弘法大師入唐の時流よ私を浮む清ゝ西へ流ふ
とらいぐきんゝ時西大流出現して色ゝ清紀
すゝむ事沈ぬ紙ゝ海私の船りあくゆ上
又ゝ清ゝ山浦よおゝく大流流ゝ弟ゝ見ゝ敬

世大逆の冥助ありとく先ふ大流又は青ゝ現ゝ
つく山ゝを蛇谷と云
一神戸村　宮沿川のつゞ紀遠の村を平紀ゝ鎌紀
こゝのり西の口と走水流ゝ三つぢや及ゝ神戸とし
こゝおわつゞく山所ゝ清ふの間私ぶゝしらあり
○私名類聚ゝ神戸村と見あり
背神功皇后三韓退治海私ゝく見ゝ入ゝ清ゝ
歌の首と実見ゝ枝頭村ゝ事ゝ云伝ゝり
一花熊城伝　うべ村のゝ乃一村あり
山城の事永禄十丁卯ゝ織田信長公のゝ
ふ矢田私私花熊ゝ城と築ゝ其私伝はる村重

仍て[illegible]野口子一ヶ所迄[illegible]て一ヶ所ゟ内
に[illegible]来に近寄[illegible]の方又小の口ゟ二手くゝめ
[illegible]西に元春[illegible]中[illegible]来[illegible]を[illegible]り
天正三ゟ[illegible]を居城し[illegible]
加賀を[illegible]と又与一[illegible]一ヶ年中居城に成[illegible]に大坂門
[illegible]城の事に[illegible]西[illegible]
公方[illegible]兵糧を[illegible]送[illegible]
[illegible]に取合[illegible]
来の[illegible]紀州の一揆雑賀孫一[illegible]
[illegible]池田[illegible]入[illegible]
[illegible]今に[illegible]の[illegible]
[illegible]

一河原兄弟塚　神戸村ゟ三丁半東南の中に
塚[illegible]松二本[illegible]源平[illegible]永一の若合戦[illegible]
[illegible]人河原[illegible]
[illegible]先祖[illegible]逆義[illegible]
[illegible]の[illegible]人[illegible]
討[illegible]義死の賞に[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一生田森　神戸村ゟ八丁半南方ゟ上[illegible]
[illegible]
[illegible]生田の杜の秋の初風　僧都清胤
夫木　[illegible]生田の杜の秋風を[illegible]　後成

爰に源平合戦の時平家一の谷乃城を追ひ落されて
大将軍新中納言平知盛卒三位平重衡は和泉の山
乃禁乃南海道まで逆茂木と曳塀柵とを引廻らし
乾乃方西南一の谷搦手馬場に材木を引廻らし
城内こりしとりやう

一月大明神

祭神一座

日女紀ニ稚日女尊坐于斉服殿而織神之御衣也
神功皇后紀ニ云伐新羅之明年二月稚日女尊誨之云
吾欲居活田長峡國因以海上五十狭茅令祭之云

稚日女尊

天照太神御妹之と祢秘

祢宜 後祢氏

社内名所四座

御位貞観九年十二月十六日従二位
毎年八月廿九日祭礼あり 祝乃家の庄村民氏なり

一 若梅 右社内にあり

一の谷合戦乃時紀乃梶乃父子二度のけ乃時梅乃枝を
手折梅乃枝をあびらせ給ひ乃ちこれ乃ちと
ヤ 結乃

玉葉 梅捨くいつら生田の郭公なかむ乃末の下枝 侍人不名

一 梶乃平 同社内より

右戦場乃ことく梶乃平三条結び井乃ひを結びて武
運を生田の神よ祈るよりかくまづく

一 敦盛萩 同境内より

太夫平敦盛公の菊と紅葉と和歌を記し信濃国
又敦盛の遺子あり川くく敦盛新宮名乃又はあるんとそ一の谷
へ為の為りの幻父は山石ばく射西ゆ去ばすてい
古塚ゆ出しとい萩だりゆ

一城ヶ口戸の石　生田の森ゆ三四丁ゆ西ゆ一村
あり梶原家紋二家のりけ山石戸の石ゆ

一小野の森　同続き小野村ゆ
治兼ゆ平又家大納云ゆ源勧修寺中山卿、和田乃み
さゆより乾燒あるゆ　戸倉ゆ

一生田川　森ゆ東御乃の川より
小ゆ南へ流ゆる川ゆて布引の滝乃ゆれゆ生田の沈も

山ゆ流ゆ出ゆ山ゆ入ゆ射ゆ其の間ゆ大和の
くりゆ出ゆ入ゆ求女塚の西ゆ入ゆ入ゆ
義経恋乃ゆ源平ゆ戦ゆ生田川ゆ沈ゆ通経

一生田山　同沈。同海。同浦。同滝　滝乃ゆ基隆
夫木　新古生田の山乃七めり先ゆ為めゆ
同　月ゆ入ゆ治田の沈ゆ
壬生ゆ　杉ゆ入ゆ生田乃海ゆ
六帖　津ゆ生田の浦ゆ
夫木　波ゆ入ゆ沖の島ゆ
一　布引滝　生田川の滝ゆ

滝二流めして流る百丈余懸道ならぬとの布なとうし地くえんうらうとこ〜〜

千載 みちのくのこのうら白そてとうかうふ雅白ちん布引の滝 六条右大臣

新古キン たらちねてはしし女の衣衣中井ようし布〜乃滝 宵家

夫木 布〜の滝乃白糸衣かれ絶すそ人の山路らめる 定家

平治物語 去ふれの内家山滝へ清く落る所後おの玉乃緒

人雅波 布滝 宗頼卿 音はの命はうつく滝童龍之瀬 [illegible]

屏風 ふるりとを身のとろ

滝のみりに滝殿ものとりあり布引山と号し侍り

たきの音と称とな為るだろう就者ゆんの約束乃他

地源ちゆり〜れ新編み

一 砂子山 鬼原新熊田村の上滝乃ひろう

夫木 芦の原砂子山のあるこのやりてこれ布引滝 仁九条内大臣

一 小野坂 同傍 生田川の東小坂也後八川すとく

堪音 旅人の乃ゑ海ケ小つひしりの八生田乃中井の乃葉 称補

夫木 同村も雅ふるそうはの玉乃小井につ玉むん 紫年

○又生田乃葉毎日正月に 内裏へ献ど今生田村のつぐさ

中尾村分なるて

一 敷島浦 狩演村岩及村ふの名演ゑ云演乃

玉ゆも同ふいゑ 三大女 乃 者ク

演千載 ゆすたにふふこゆ乃乃浦のゆるゆやうるうに神ゆもん 作光

新ジ古ト 新古ニ 里乃ちゆ人も同ひてふゆ乃ゆ海乃波ふ 定家

夫木 波こゑ あまの笠のの方ゑ ゆくとすれば生こゑ 兼宗

一 生田里

夫木 稲葉 ゆく風をこしてをれば生田の里の秋の雲 俊成

月 秋の月 向は人のおとつれも生田の里の秋ゆくり 為忠

一 摩耶山 [illegible]

[illegible] 稲広堂 [illegible] 光仏坊の宿十八丁三ヶ所体法あり七曲をすぎ仁王門よりうら門かの石段階七段 [illegible] 二百十壇

▲本堂 南向 十一面観音 ▲夫人堂 ▲毎方塔

[illegible] 法華あり

[illegible] 山 天武天皇の法治世天竺法乃仏の造創する

不[illegible]なる観世音八十三寸の尊像 [illegible] 別天竺仏舎

[illegible] おひく 間深 [illegible] 釈尊 [illegible] 二の [illegible] 城 [illegible]

さしわ法の十一面の像 [illegible] 法乃を [illegible] 日本に [illegible]

て大悲の [illegible] 物と [illegible] 仏 [illegible] 観世音

法を [illegible] 彫刻して [illegible] 仏像と胸中に納め今

[illegible] 並に [illegible] 夫人の像と別に [illegible]

[illegible] 天上寺と号す 額弘法筆

○夫人堂 [illegible] 乃の [illegible] 梁の [illegible] 女人雑毒の [illegible]

[illegible] 帝を [illegible] 一の [illegible] 夫

人の彫像二軀一刀三礼して彫刻する人一軀守人谷梁の

帝都の [illegible] 一軀を守る 弘法大師入唐 [illegible] の [illegible]

きこえ侍るよおさあり侍ふ

往昔は大小堂宇三百宇に及てより以来の編

素らびすとはぎ誠に掛列堂の名刹にして四至東西十

小稜至古蹟術廣き今坊舍僅あり寺領あ

一本光院　一袈裟正院　一五蓮院

一蓮華院　一大乗院　一明王院

若門院　慈眼院

元弘年中ハ八郎の城よ和松入道常心義城乃ぬと山頂

しく叢石塚くらうて今ときと古弘法まり

一求女塚　又處女ヒ書　乙女塚

おくり塚ハ女の死ろうあひ、乙女とも

りしめ塚ハ二人乃男　小竹田男　千努男也
右塚ハ乙女　一ツハ　生田川東味泥村にあり
一ツハ遠目村にあり　一ツハ住吉川西御田村也　名十丁斗をへだつ
万葉　いにしへの小竹田おのこの妻とひしうなひ乙女の奥津城ぞこれ　福麻呂
日　若乙女のつまとひし乙女のおきつきとこれ人よまれ孫のみかみの日
日　塚の上乃木の枝なひけりきくとよちぬの男によるへ[illegible]し日
此謂ハ大和物語に歌あまた集よ委くかきたり
むかし津の国ありやの里に住女ありけり乙女とや志ける男
二人あひけり　ひとりハ同国菟原氏小竹田男今一人ハ
和泉氏血沼男氏まつすらをなん云けり　その男ともは其の
此女をおもひけるあまで月すきかりけり女ありわびつひれ

生田の川よりひくぐるまをおしてめぐりて二人の男をとらえ
て女乃親れをうし山川よりなをうしろみをかりてあく
あらんくへをもんと云男どもいとよりたのそいてうしろひ
うしろ目のひろうを射つ今ひとりハ尾のうを射りる
ものと云ぐくもはるぞ女ひとりひきりく

伯耆の我身をけそんはの宝田志川ハのこれり
こ侍く山川へ身をなげめ二人の男をつづきて同しあへ
身をなげ果わらんめ親いとじく然とて取ひげをもりり
ぬ男れおやをを守ハへ身より山女の娘乃こうに娘を作ま
うばひとらはの宝れ男の親乃ゑう同ゑをこそ同ゑみ
娘をせよ作の宝乃人い爭う山ゑの主を犯ごきゆく娘りふ

和泉の親やをてりづこうり船ゆく主をんこび船より娘ありり
山娘ゑり本場のゆ檜をうめげもび生つきりりその世を
ゑ主の色りりてゑりり

摂津

求女娘ちまゑゆかゆゆ宝みれわれにあれやよるかこも臣

建武年中ゆ山田主沙高郡求女娘よりあく付死又新田
義貞ゑ宝り船へ為ものわゆ

一 船寺 大江村ゆよて杜あり 正八まんゑを祀ヤ
当玉波豆川村大舟ゑをうきて船るゑも云より

一 弓弦羽嶽 ゆゆ宝ゑ宝ゑのり海ゑ宝ゑ船ゆすゑ声を帆ゑ弓ゆくゑゑまつ集
たゑ同村の村の和
むゑ作功皇后三ゑんを伝しゑ舟まげ弓弟ゑを織ゑ

多の山を四号ゆり今濃茶とも称し源義経西国
下向の砌山浦あく雑風に遇ひ時の舟歌をそをい
のり流るゝあるとぞ山嶺りゆづりんが嶽あり

一清新の森　薩摩松原　名所須佐村の南西浜
是は新村の西浜を小松原とすべき所とす長い松
原のうつくしかりけり山ちゝ

○清新山所領に聖徳太子の母后三宝と敬ひ法の
師を尊じ生身の観音と崇め給ふ　基俊
樹に雑鬼の崇りよ光つく西方浄土と遥拝し
多の樹に雑鬼の崇りあらんで南山のいでさ光明を

しるしらせ給ひて吳書四方にしらせ
て法法号容数祝ふ　りよりく清新と称とし
▲山麓の法滝は則山のんきんとしるへり

一兎原滝　同社　ひやうご谷三里ほどの村は
天木　清新山郡の北月よ流れてるやふくさのふつ神ふさ　西園寺
西条庶数多あり社は村中・川は村とづま須佐川と

祭神四座所領

○須佐　藤岡氏　中分男　下分男　○天照大神

○田心務命　○神功皇后

皇后三韓こそうに付須佐の荒魂を神ようにの
物く変ふいうり綱ゝ結ふ西と俗ふ元須ようれ

社こゝより北の号にはいくゝ老木ありと称せ毎年
ゝ社ゝ大神ゝ大神ゝ
○硯石　神おろしの所也
○その松　ゝる場の並木乃内より
○立石濱　方角つまびらかゝらずこゝ也一説老木
北海道と云ふ川の末より一村あり
蝦夷地の内宇流ゝ流ゝ又石狩の船を造
らしめ給ふ武蔵の漆を浦と云ふ小入ゝ
及く集ゝ
一湖田浦　大ゝ村ゝ
夫木　綱ゝ

乃海をうしろにして南の表村の民家にてうかがる村民
あまたと称をおせりれ静寂を称りて民おのく
神をうやまひ祭り神をむかへ其村の社を建て所の
氏神とあがめ祭る毎月四月の日神祭の日

○同郡松尾

ふうえ村あんづまこたち
荷川下りして表村の稲荷の神事神輿をふづさへおどり
をりよりかり川神をいさるかとめりるかとこ
一華屋里　ふるの小ぶさの村へあやかりあり
[illegible]　[illegible]の里乃晴る表乃口すむ方社月ふかく
[illegible]　[illegible]のくらすむ方ふるこく芝の里に秋風を吹　定家
[illegible]　[illegible]の里に秋の名書　家隆

○業平物語に假名古跡　山芝屋の里　業平に領地
[illegible]　[illegible]の晴る表の里の川きの長も我住さの海士乃燒火　業平
○芝屋屋敷　古迹村の中にあり　昔あるやれ里にて及び
西に七百余所の所に芝屋の家よりかく一つ月
[illegible]と作又芝屋が猶中をうつてお読乃事と遠こ
に年す芝屋洛よりて遠西表く樓閣をり国く月
乃孤猪の身と成まり最明寺入道時頼公法をめ
ぐく貪猪をうつ乃族使をいまむそにてかく月
乃そとうりさへ芝屋と仏同してそうこ海をゆくあ
不仏をゆく海をゆくあり

○猿丸古墳　英公光田橋は西く村の内かに古迹
のこせり俗伝不詳　猿丸古墳の石塔は川右東
一　鶴塚　芦屋川東の方下にあり
西清沈の酒源二位牧改矢西く射流さ
紀多鶴毎こく入く西流よりおびた芦屋の浦ふ
ぐまより川く西海浦人えとさく芦より望む
同所二ケ所村の西に塩屋ひとし
一　湯元の業所
ヤ当ふ西島温泉は荒れ湯い熱地桂現の祈力ふく南
海分山芦屋の浦く引毎ひとに付着いたる温泉
山の滝坊月次に示篤して世る像と為て塔世仏
蓮破壊して今第ひとこれりひしれ私おるに仏て

湯元の私しいへ
一　芦屋洋　同浦　同浮　同沖　業平
あしの屋の洋乃塩やき賜ふこ法けの小橋もさしたり
大木
芦屋の芦屋乃うしたあまれくいもとよもこれぬ井屋の比　松冬
古を
酒波ふあ屋の浦はるを海よりかのふんゆり紀酒の志山　内部
特勅
過芦くの屋乃沖のうきふも義酒いちりき勅ふりけと　後成
松イ
芦屋くと月むくれ浦乃よ海志のくに火乃煙ゑ山　田冬
一　金洋山　北出村よ向ふの岡山ふり
この保親之山吳山よ於く金屋一万　黄金一千枚
を埋也山里仇偶ふ所ふ附そとり志く屋し
ものだりしと之よりく金洋の号ひのとく俗伝

に云こ二十一年とかくそと伝ふ

朝日サス入日輝クコノ下ニ金千枚瓦万枚ト云云

一 井出村　去庚午日皇余ゐの子孫一村こゝの浦むし神功皇后三韓征罰しまひく築紫にゆき給ふ皇子生れ給ふ則皇子の舞坂皇子二君熊の皇子そと熊ゐ軍士とかくけ演よ集さく母と給皇后を初めひく南海ふ巡て阪濱しまひこ皇子軍士討出をとかくうら出の濱ゐ

○当氏こゝもちの浦なる沢亜義ぢん和

一 河保親王御廟　大井出村上にあり平城天皇

宋二皇子三郎弾正尹弼一品の保親王仁和三年京
行年船石流人の配流の時此所を遷されるよしか出村
の内の則阿保山親王ゆかりの寺なり
○建武年中富山の城の波多河の山の城主の築城
一宿河原　西えびすの社あり九郎の宮佛堂でんじゆ
の庄村又月郎殿山をさして者の家とんぬのもと流石
一沖前沖　西えびすの浜蛭児の流れとも云ふ
神功皇后三韓さいばつの時此所に築城
のゆゑ名付けの時の海浜の和尚廣田の郷
に出来ぬ今廣田の社則是なり

こと海をこえ沖おの沖いまゝ乃浦とやく又異国に通
ひの兵をおくり出比よりはるさを行ん去よりはるく出ること
武庫郡と号し神功皇后紀さんくう
千載 たるくしかすゝの沖をゝん浦せいをゝ井ゝすゝゝの井ゝ弱み 求女
夫木 はるさりく光ゝ浦のゝ乃ゝゝゝ

宮名の美と為くこのひく人魂乃乃名を取のハ
の張と成く村民へ戸を閉かへ出ず忌籠の祭と云
此上洛家戸を閉く社参也世俗十日恵比須
云六月十五日八月廿三日神事あり

於玉 西の海の風心せよ神やたのしやや西ひも三神

ヒロタ 神今 ふへへ神ゆえ問つめ夷へふこころのろと物の云まハ 求政

○又山和高氏ゆえ為の御新田義貞陣所

○推古天皇九年三月聖徳太子始て賣買の術を教蛭
子の神より芸を商賣猿濃の神に今に恵びを祈神
うて法商人あがりせるの社御うらぐまう

名所記追加

一廣田社　西乃宮より東ひろき村南ぐまきまて道ありこ道
より三丁山きまに二十二社の内廣田八幡宮神功皇后乃御事
又京の鎮守滑

▲一ノ殿八幡　住吉　二殿八幡　三殿廣田
▲四殿南宮　五殿八祖
毎年七月七日神輿を出し結人を練む又
八月十八日後の神子の氏子是を出

歌

蛭社をよめる　六条太政大臣

今日はでかくて居つめすの国ぬぐえひろ井神に海ちん

一氏東山　尼てむこ郷ぬ

未木そり流れや湧出てこゝに八雲かゝる地となり公弱
今 姫の岩戸武庫の孫は右馬丞の子孫なりて世々代々武井六補
○六甲山 武庫の續きより有馬郡尾樋村へいたる武
庫六甲の山門なり當山八仲哀天皇先后大仲姫乃宮ましまし
つゝう忍熊王てんのう崇ゐ神功皇后を惡て兵を
発し三韓をせめ給ふ后是を知りて武門の宿禰をつかはし
軍應をきたして廣坂王及ひ忍熊乃族臣を誅して山に埋其
かぶと首をうらなを以て六甲山と称ス
○甲山 右山續き武庫六甲乃半腹をとゝまれ ちかく
ぞとの上に四方同面よりて面向不背の山也或ハ又ハ基脩ぶこ
なるに居て昆陽乃大池を造らしめ其堤をとゝて統禾

高ゆ流れ出ぬ化山とも云
一 鷲林寺 ひとの山門よりあり山号八六甲山と云天
長十年弘法大師開基なる土面観音乃像を安置ス是則
大師彫刻の尊像也天正年中信長公放火よりして伽藍ハ及
宝物旧記悉く焼失して後今僅ニ茅宇を結ひ本尊を
移し村人こゝ城ちる
一 感應寺 神尾村よりあり山号ハ尼山と云始八浦
明ちゝ云開山ハ高尾山者ゆ観音弘法大師乃作浦鳴
ゆ護ち像乃内ニ納む旧記畧之
一 角松原 けのうら町より二丁東
万葉天乙女ゝ塩焼火れ おほくして はのくれふれ あらを

一沖戸村　右つゞきふ一村あり

以前に為田満仲乃沖子びちよれあの所代よ立一部落敬承

仲元の子幸寿丸の首を為田より使とふして持きたり此

池水にてあらひ宮に埋しより風越と名付ち松原山昌林

寺を心願邪乃用基し登寺丸石なりあり三月十日に池

乃の魚り多とと云　弐ハ津門と年

一鳴尾磯・海浦　沖ヲよあり歌島

千載とにところハ都の方乃山の端ち見え波鳴尾の沖ふ出ちき　実家

一押照文　小まち村ふあ有

おしてはの号を祭ふ乳と云へり

万葉　掛ち机て留ちり雑波乃海おしてろ家ふにしろ子ろ人　家持

一小松崎　四尾続きふまち村ハ御乃より小雑波婚ロニッ

松と尺　八松　留委　小松　武三ケ所を云

新勅　雑波ろ乃風さ世汐ふれハ小松ふ倚よ千島崎ち勝明伝作

一民庫川　大河

夫木　津の国にあり武京丸川流れくるにをいなきくふ　知家

玉葉　むまの浦と為り為しいさり為海ふ乃釣船波乃ふり為　俊

一琴浦明神　東牡田村

さゞの天皇第十二乃れ子　従位河系左大臣を花ひ桑山城

の国玄茶は原流よおあて　塩竈丸浦を摸し　ふとき山ふより御を

仲正

一浪の浦ハかり見のあとふ為ふ

松乃牙

一猪名　蓬川とく世還ふたしあり山川猛流川なり云
當國を猪名郡池田川迄を云ともいつり海渡湊冲川山池歌多
一難波里　なりやま一村あり尼崎より八十丈方
此所より梅あり　百濱西王化の歌
古今　なにはがた　なにはがたなにはがたなにはがたな

所々の物の積り寶永七の寅年まで

一福原うこ桜　五百年　一花熊屋敷　百三十年

一はき鴻　又百年余　一摩耶山　千三十年及

一つぎの氷室初り　千三百年　一伯保ちんこう　八百年余及

一橘正成うち死　三百七十年　一神功皇后　千五百年余

一同石碑建　二十年及　一竹養ぶち川　九百年及

一たび山開き　九百年余

兵庫名所記巻之上終

兵庫西の町ぶり

一福厳寺

巨鰲山福厳大聖禅寺と号し開山佛灯国師なり後醍醐天皇たきの出より御海浴の時三年の年宵晦日尚る小一宿皇居の不なり

尚境門小自然居士浩居の井とかしむ水きくして渇すり幸ひし今久遠孝の塔門小西

同所南なびるり

一福海寺

大光山福海興国禅寺開山在菴宗有大和尚本尊釈迦運慶作なる軍源の氏こ説国安氏のたち創しなり延文のひそる氏はくしもり上座の長兵

仏兵庫の浦小集の元寺なり初所にうつり則当氏
御自筆の額千渡又御係の義満公の額をかく
山号青竜寺あり往昔は二十西にて伽藍堂塔高大
中央にいつて殿宇坊舎悉やけうせ後今は地ふ
秘仏と云

観音堂十一面大悲尊ひとり諸傷わつて後とかの尊
仏尊像ゆゑ小多門天の樟にて是弘法大師入作尊
一二本松　右寺より北西四町ばかりの上に
建武の比足利左馬頭直義陣所
一真福寺　兵庫西南の町のち
當寺八白拍子妓王妓女開基なり観世音ばかり則ぎまう

の守り仏小像なり一仏寺より南今石橋と云小川あり
逆流川と云丹波のずねより出て川とあり
左ゆゑ小さうて川とあり
一和田の岬松　右川の南ぐさにあり古木にかはりて
後世の松なり
歌小枝末までかまる青葉の
和田の岬なる山もみぢ
一一遍上人の御廟　同所
西月山真光寺　板沢孫左衛門元祖一遍上人の石像あり
同の中迴堂の御正庵　己丑年八月廿三日当地にて遷化
一の御年八十四又元孫八幡年　四月十四日　四十四代

一遍上人当通所墓卒七当寺にをいて迂化しのふ
元祖上人石塔のあるべし塔あり
當山往菁仁明天皇御宇に惠尋法師入唐して宋
王小調と帝大悲乃当体を賜小帰朝の時小かんで
船をうゑ小順風をぞ乎して稲の穂花小ひろ時船ごとず
惠尋是をもちて大悲有縁の地に安置をそんぶ
ん堂の右ふわり時宗元祖上人と中興の開祖こす
當寺什物品々
▲蓮家自畫の像　▲人丸自畫像小定家の讃歌
▲紫雲乃名号　元祖上人四字ハ弘ハ異也

一混塚　真光寺の赤ばと所のたうなり
但馬守平の経正城寿永一の合戦城の内にあるあ
ゝ又一説小曰常小一ゝび青山乃雲を埋し石とも
一清盛石塔　びたゝ塔の横小ゐく松風のかく
入浦海路六条にて東和元年ゝしの国二月四日平
ゝて薬師の御遺骨小寄実法眼ハ福原小相来
ア夜小わさむ是後石塔を立て小系七代最勝園寺
平の貞時ハ石塔を建の小弘安九年二月日ゝ室石にあ

其場

一八棟寺の迹　右同所ゆ法華云ふ世青提寺
天正の比退廃して今ゑのゆ法華山立世義安二
年に此寺を再興ゆ寺号を元亨釈書ゆ
一法ゆ乃八仏　又次仏　同所下
百葉　わぢ此行きさ乃八仏の名誉法のわをいさ流りそびさして　無
[illegible]　えさご所ゆ法ゆの八仏はゆ　汝ゆ乃ゆ人ゆ与ゆ方ゆ　寂蓮
一菅乃御京　同所南京の方迹の[illegible]ゆ法華云
芸の国京ゆ　又樓の国京ゆ云ふ所ゆ三間乃板屋を造り
後白河の法皇御押ゆ法華経七月十四日の流人文
学上人ゆびて乃ゆ此所ゆ法華経ゆ[illegible]
一奥の御堂　同京大原山寂光院真福寺ゆて大[illegible]

冠石寺　皇瑜女尼拵ゆえ天正年中に破却に異名
とうとの山号と云遺跡事先代今異之

一薬仙寺　信濃路より一町南
開西王山と号す天平二年開山玄昭坊　天台流
聖武天皇御基僧正に勅言わたして開基し給ふ後鹿
安二己酉の年宗教昊山玉阿上人時宗に改宗す
観音堂　古仏傳来則和州長谷寺同形なる仏
なり又尚白に南蛮愚自畫に施彩是乃絵画物也

一千僧寺の跡　右寺乃南今宮原の三昧なり
萬年山と号す行基僧正の開基一千人の僧を供養し
給ふなり　赤田光大師さねきに出へ御下向の砌滞留

おいて弥陀経一千巻会仏一面万灯を供し一宗の貴
坊帰ひ集り此事浄土正宗名義集よりあり

一灯籠堂　千体の南和田の原乃門
たちこめ人々はわざれみる所にて毛持紙若干人集て
万灯とぶき行のみ此所今退転いまだ人の法ありり
崇業寺　きえぬ法花坊乃所ばかりわざのみ変りり　西行
建武の比そ武士くしまり上洛の兵大鉄太郎四氏乃陣不
なり

一和田の磯　同海　同入江　同浦
兵庫南海中辰巳向ひ小さしおかる湖えたり
夕陽わたみ所沈漕船乃行帆小門や武庫の浦風　八乃前大阪大ニ
夫木　おなじ浦をる今業船とあくさ浦辺より月といざ具民
万葉　漕きよく漕なり此神代より船の泊る大和田めぐら　不知
名所　次風八幡尾乃杉はおとゞまて和田の八幡ハ神乃月新　受牡

一大和田浦　和田の三社漕船乃
夫木　おなじ浦をる今業船とあくさ浦辺より月といざ具民
万葉　漕きよく漕なり此神代より船の泊る大和田めぐら　不知

一和田明神　兵庫南浦つ長ノ所ノそば也文ハ万治
年中に洪水あつく高岡おこの河辺おりしのこ人ハ所流也
あぐらせの多　毎年六月廿三日祭礼ある西国上下の渡船ハ往
ひとりを行りゆ其験能能ろう

一兵庫大博
天正年中池田信輝高砂てまの郡有岡城のこ婦男
正九郎此博を守り中旧郭今よあり

一 本間遠矢　和田ノ浦ヶ三丁ノ内ニ

建武年中ニ源氏はくしよう上洛のとき和田四郎重氏ハ和田の浦より相模国乃御船へ矢を射くゝ名をあらはしおく

一 門裏屋敷　ゆゑ氏系ちご所ゝ屋敷ハ捨て中西面し

福系彩形・安徳帝御行幸の門裏屋敷ハ西方築地乃

跡あり和田の地名を今水の子と云

一 延喜山　和田乃系に

醍醐天皇行幸あり流しそのまゝ山所王城乃地勢わ

ひとしきに一つの山はてくゝ築地のしるしあるをよこ二丁ハ三

一 中の宮山あり延喜ノ頃ハ山の名ハ無

一 浦海里　浦海里ハ相模ノ十丁余ニ東屋敷村ノ西

万葉ノ長歌の地乃小菅を見よ

ゾウ　踏ハ足ハ地ハ水ハ

万葉　ヨキ　ヨキ　ヨキ　ヨキ

夫木　若ゝ為長歌の里人ゝ

一 白梅

菅原道真のとき和田のミさゝ

秀ゝを乃ゝ東愛ゝ行名

一 通盛塚　ハ屋敷十丁西徳尼の面地のとき

ハ尼天ハ有一の谷合戦重ハ山乃ゝ大将越前三位ゝ

三十郎ゝ木村源五と組討しの

一 原天ハ

万葉ノ長歌の地乃小菅を見よ　人丸

踏ハ足ハ地ハ水ハ　サガミ

万葉　ヨキ　ヨキ　ヨキ　ヨキ　人丸

夫木　若ゝ為長歌の里人ゝ　隆信

一 白梅

菅原道真のとき和田のミさゝ

秀ゝを乃ゝ東愛ゝ行名

一 通盛塚　ハ屋敷十丁西徳尼の面地のとき

ハ尼天ハ有一の谷合戦重ハ山乃ゝ大将越前三位ゝ

三十郎ゝ木村源五と組討しの

一 原天ハ

近江の國人本村源太重章ちらうと打死

一 石塔七川　右塔の西の方だらの小川橋あり

ふいらの重衡　平家ねらう落ちこ云　藤川　苅藻川　ちらう

波つと重の池　右手よりの弱が林を花ち乱し　板屋と沢ア

と打ちこ云ものをさして落ちのとあり

一 長田大明神　落ち川はぐき右手居あり　額道

風の祭こる物　並木八長田村の毎年八月十八日祭礼あり

▲祭神一座　事代主尊　摂社二座　神主大中臣

神宝九穴の貝アリ

神功皇后伐新羅明年二月皇后之船廻於海

中以不能進更還務古武鹿水門而トス於是事

代主尊誨之云　初吾于御心長田國則以葉山

媛妹長媛令祭

○村上天皇應和三年七月十日於當社雨祈アリ

一 長田里　兼仲

夫木　長田の里にも苗取こ

一 明泉寺　長田村奥天照山と号大日堂あり

一の谷合戦のとき越中前司盛俊此所又武道平知章ノ

はかあり

一 蓮の池　かぶち川つづき

此池ハ行基ぼ川天平年ほ農業旱魃の愁

なるらんがためよ蓮の一種を池中へうゑ入切徳水と祈し

そうのゆと号すゝ

一 西代村　　日ろくび迄二村あり いけ〳〵はたおれいぢ

ゆとゝゆゝ山ほとりゝ原のうゝ原のうゝ原のうゝ原のうゝ

井ノ坊

一 盛俊塚　　けい代の西山ゝまの巻あり

西ゝ伝大和ゝ門ちうのおりとりやゝ原氏方 盛俊平六

則総と組合のうつる 陳ゝく 盛俊を討

一 禅昌寺　　そもゝの尼上山内

帝釈神松山と号す開山月菴宗光大和尚　後光厳院

延文年中御菓剣のるゝ称辺恵教彫刻 嵩山八豊

ほゝ云形 要よあひるかとゝ安長中上聞令旨を賜り

殺跡を傷興し給ふ此わくしけ山上の山を神極山とゆゑ奪れ
山と号す昔神功皇后三韓帰朝あつて是よりあり石舟あつて
いまの上をおでゆゑ忽ち山とろ〻どろく神極山と云ふ菴和
尚鷲山にて悟くあるとゆゑを嫁の勢原く久仕寄ハ云り
流ず屋ちのぎ〻く流嫁とゝの後号る〻へすゆ其後和尚六十
四歳にて康應元年己巳三月廿三日遷化しゆゑ正續大祖禅師と
贈号あり

一妙法寺　是の花をたてゆゑ山ちく
長言せと山とゆゑ伽藍のもる孤と中堂昆沙門天大仏　又ちとう
十丁ゆる城山ちく車村とゆゑ有ゆゑ矢根地蔵ゆゑ有り
一二葉松　一名ちやえ松　又陳氏松とも云

的ゞ林村のほよあり　るさよ原ゞ二谷原樹に方へ　てびまり
はゝ不多くあり

各所へ一の的ゞ林乃松これハ樹一古来もつてばりまり　康武

一　淀徒橋

今ヨウ　ちらめや淀の徒たーすゞ　武不雅面人をひき原とて　長実母
集　又ハ　ねにどのつゞき橋　もより陸ろく淀ろ高の　ちらつゞ　武たの

一　恵度橋

こまゞ林二丁西

川まちまのたのり二谷蔵博の月毛アハ六沼大恵沈よ河ま　た
まゞ佐りに金牙こ行年早厳又猛博ハ毛より三里余にし
橋及川　在人九柴のケとりよみ

一　盗人松

右の次形西村ありむしハ二ケ西　朽

て今一ケ大木ゞ此松海岸ゞ　ほよあつく白浪ゞ　ち屋舞陸の池
ゞ西への名残りとう　又此まり　猫松とも云

○ぬす人を白浪とやの浦　り浦漢の渡角と云ひむはん
を蔡ゞ　解ゞう白波谷と云ホ　ろ元居て賊賞地
なゞ　麻ゞり時の人足を白波賊と　ハ陸ろくこ
より盗人の異名をいらかみと云

一　飛松

板倉村

菅原桐ゞとへ流乃池梅梅松の三本を愛しゞ
よ茶木情ゞとは中勢とも梅ハんくはくしゞ
梅ハ折て松のゞ　ゞはれなさよとゞ　池松山　ゞ
ゞうゞ　ゞ船を和西乃押より陸めのよ又松も

久毛失ひ俗四方を打り足一丈の松を植て名を尋ホ
乃こせり

一勝福寺　西井村今又下り井の上文居ゐ
聖天社の社こもるかく大なる村ノ上なるあり桂尾
山と号ス　茶の湯御勅願所ホ寺ん春日の作閑
さん　弘法上人ゑ云也　天宝三年　牧溪思
恭長たる三幅ノ仏師ホの筆おのく佛法と弘法大師
西行の揚枝又ゑ庫つきど後世の時ノ幅十二ゲ条　并
佛像ゑ茶ゑ昔ハ坊今ゑ絵ゑ多ありしが今僅し

宝光院　遍照院　東林坊
乗法坊　探水坊

一月見の松　ゑ庫より一里半東次ノ村ノ上山の中腹ニ
松十本余あり行平中納言月見の四絵
○園城寺　○福泉山　岩東次ノ村
十ひろ原氏ノ古迹　けすあのうち
仁明天皇の代ノ光原氏の君次ノ帰石の景色よまとん
愛ホ斬く長秋を送りゆ久ゆ乃ゆませろきと中ホ云
一孤馴松　東次ノ村辺すべての松を云
行平ゑ山海ゑ迂ゆ久三と称して阪洛ノ名ホ
を慕て松の恵ぐ名ゑ　後載
後ホ次ノ海ホ立庫ゑ　ゑ乃ゑ
一行平配所の松　ゑ乃ゑ白浜ノ東次ノ

中納言あつらの行平任和年中尚濃より配流うつしこ記
植たきの跡〳〵まこと也ひら松と云太さ五ひろ余あり
○山ほうと松浦村西乃間跡と云二人の姉妹の古迹ハ
是より一里山奥よ井の畑と云姉妹の石塔あり
お出せの池と云
行平
ひくらわよ間の人あり次ぐの濃ふとーゆ也と俗よ
○焼の池
行ひら卿配流のうち俳よ戯きうさ多ぐ也乃徒然よ私
の勢ゆ〳〵さめの女と乃ゆこひ乃事ハへの乃り行ひ
て後二人の わん れすざうちの哀ゆをこひうきうをこのす
なわち此ひ乃ゆたがいよ山水ようき侍を移〳〵ふゆられ

ハとく焼の池と云
一 細敷天神　行ひら〳〵松の西
菱桐ゆを花ひヤ社乃り築紫よ流さの乃ふ記よ山浦に
新と云む漁者船人濃をまげて遷住るはじめ指豊浦
の景色を詠めの乃時の人形像を写し祭て徳出天神
と称す
一 腰掛松
次の末こ年三位平の宗後次ぐの濃遠藤して庄の太郎
家長小生掛きく山松よ休ゆ浦人湾酒を持ヤきれ
ハまひ〳〵一宴也
行ひらや浪あそとを折ること次ぐでの此ろにごり掛れ

一須磨寺　兵庫より一里半余西ゝいごう上ゝ

上野山福祥寺と号ず　後上人

柿須広ちとゝ戸ハむゝ天長の比和田の押乃海底に海松

光明かゝ為ゝて碧天を照す法人恐怖延ず漁人

あゝ網をおろし奥をとゝ一つの檀木観音の霊像を

ゝ小宇に安置ゝ其霊験あゝたるゝしけ中納延ず

遂に光孝天皇仁和二年ず聞後上人ず勅ゝて須ず

の御上洛とゝ山よゝる縁ゝけ中宮創あゝて天下安

全の御願所ゝ寺其後久寿年中に源三位頼政修造

寺社とも悉再興ゝ云ゝる領掌あり

又其後拾大納言豊臣秀頼ゝ再興

○本堂の厨子ハ頼政寄附の遺ゝるゝ

○楼門ハ金剛力士ず毘沙門ず父子相ともに彫刻ゝるゝ

須広寺　霊宝ハ弘法大師作　▲玉葉の笛　祐経作

▲玉簾笛

▲敦盛赤旗　法然上人筆

▲母衣絹　在号

▲法の水墨　法然上人筆

▲敦盛幼少の時ゝ弘和歌二首　一円甲冑あり

庭松

実松ニ祝ヲ云ト云ヒ

編ろ松よりとせの経て久しくまことや彩の山風

▲若木樹制札　武蔵坊弁慶

須広ち桜　吋義経東下ス一枝ヲ折盗ム者

任ニ天永紅葉ス例代ニ一枝者可剪ニ指

寿永三癸二月日

今坊全十二宇

一慈眼院　一東林院

一摂寿院　一大聖院　一華厳院　一正覚院

一蓮生院　一不動院

一安楽坊　一東義坊

一林本坊　一松之坊

○漢竹塔婆より昔神功皇后新羅征伐のこと和名國松浦川にて鮎を釣り給ひ給ふ

有とく家小沼む橋繁こうへ今をを橋かそびたり

一若木橋　次広るのおよみ

むかし源氏の君すめる屋敷小橋　木あり　源氏の世よりうつり　ものまれさらぬのうぐ咲とめく

宇治のまきはらうくとろ

橋と風あの世の名木ぞ　橋くすれぬ　美やの沼堤ひん　定家

千載　もろ書そあの中新と帯ぐ布せい花やとうひの立るほ

一後の山　同上乃山ぞり

未木　月出ぬ橋の山を眺く沼乃庵ようる浦風　為家

千音　ふの人のおりひすしと宝の庵の沼の宗を法けく　為尹

○須広寺の風来

御よ浜より西へ一の谷古戦場のかたり後京の
き一里半余坂湯煙を去る十里余ほかに波ちろ紀
鵯越の山はきは峨こうく峯まる〜糸南海紀乃
加浜海害和泉の浦名紀波合まんくとして漁海眼お
よ遠江九柴万里こ波ろ紅葉よ京ちば月ゑんの紅乃
平氏配所西を顧ぶ後楊ゑ峯様み松ぬろ浦も
なのうめこ〜を聞くよ
あ〜〜よ聞くゑ乃来の梯浜ゑ紅風樹毎の古を見
一本桜も中こせ姫ゑ乃来こ
一浜二の宴屋　浜まるる場浜を家苑見ゑ乃ゑ
京花　ちゑめ乃ゑ乃ゑ乃ゑ人やの乃ゑ乃ゑ乃ゑ

合又一ノ谷三の谷のろよ法勝庫院の迹あり山おを法
上野と云
我恨子ね次ノ谷の森ごろとを施あり〜旅客浄
二ノ谷の七さ三十余よこ八ろるさ九ろ谷ろ浪打ちて四十ろ
余一ノ谷千谷のろ二十ろ餘山ろ小　坂落　叢石
淡路あり
三の谷七さ二十余撰十九ろる九ろ谷ろ浪打きしまて又
十ろ余二ノ谷と三の谷とろろ
一敵落
三の谷の間往還ハ少上て
太文平敦盛寿永三年辰二月七日一の谷落城の日
次鳥亜賢よ討ぬ十六歳空顔瑛清大居士

山石塔あり蟹の爪再来して見れば立ちのこる立ちのこり
高さ一丈一尺臺石四尺四方あり
もみ山塔の上に山り泉あり井戸あり

敦盛石塔

昔斯地有戰場名　流血染残嬾木櫻
須磨浦風散花夕　恰如熊谷打敦盛

一休

一鉢伏峯　三ノ谷の上にあり
昔神功皇后夷敵を退治後ありつく山岳にけぶり
士卒と集めの甲をぬぎて北に伏名軍功と語れ
ば依て鉢伏の峯と云　書れ盛を伏方にまきの
一須ま浦　兵庫ノ一里半余東西濱と今持

[illegible]川あり

千載　[illegible]八月明八ちくさ[illegible]うら塩れまさる浦の浦人　俊成

拾イ　[illegible]辰巳なてと[illegible]かたそしはまもおの浦く　人丸

[illegible]の海ぬさ人とけふ[illegible]やまとせさ[illegible]　エケイ法師

○隱江　須广の逸ッ云　○樵須まの浦

六帖　[illegible]ゆ[illegible]塩[illegible]　ヨミス不ス

[illegible]須まはまより[illegible]生[illegible]

一境川　長[illegible]ノ二里

[illegible]と[illegible]須の境ゆり細川あり添氏[illegible]の戦場ノ

[illegible]八東生田の杜を[illegible]西[illegible]八[illegible]引塩[illegible]村[illegible]を限つ

[illegible]城田と須境川ノ境ゆ村まて拾丁斗西[illegible]谷より生[illegible]

[illegible]山[illegible]一二のうけ先陣あ[illegible]

一境川ノ西[illegible]引[illegible]八二里須の[illegible]海上三里[illegible]

[illegible]甲辰[illegible]二月七日一の若合戦平家対死の人々

[illegible]二月須[illegible]元年二月

一[illegible]　一[illegible]　一[illegible]　一[illegible]　一[illegible]　一[illegible]　一[illegible]　一[illegible]　一[illegible]　一[illegible]　一[illegible]　一[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]大将ハ一ノ平[illegible]　一[illegible]

山[illegible]須の士[illegible]元二千余人と[illegible]

所くさの数の積りと寅水七庚寅年まぐ

一極蔵石位置　三百七十九ヨ　一某仙る　九百八十ヨ及

一極海の重剣　三百六十ヨ余　一神皇の系剣　三百六十ヨ余

一一遍上人　四百三十二ヨ成　一須広る　八百二十ヨ及

一同坪遍上人　十六年成　一大宝鶴る　七百二十ヨ及

一法然公薨　五百三十ヨ成　一一の長崎城　五百六十ヨ成

一同　石清水　四百二十ヨ　一竹中　八百二十ヨ及

一蒲亟相　八百十年余

矢田部郡丹生山田の庄旧跡二ケ所　兵庫より小三里山中

一梅菊井　京四条村栗花落氏の宅よあり

水の浦生活間長四尺余直三尺深さ二尺はゆよ水をしまゆれ

梅雨に入る水口を閉ての梅乃日数を

数む五月栗乃花の落る比梅雨の時節なるゆよ三度に

似の花乃咲と姫と姫祖山田左衛門尉真勝八四十七代廃帝

天皇の流れ朝廷よはゆしこれよ横萩右大臣豊成の子乃息

女白滝姫を恋慕くかくと云なつゝね白たき一ものの和歌をおく

侍　中ねひめの妹

雲ぐたもかゝ庭ね業れ白滝をこの乳恋く宿男よ今

とようてちよびるき外んと立て雑面かりをきハなをあこゞまぬ

是より返事ハさば得させしと方をれいさまうり度ゞて
まな丹乃稲だのを傷けこゞ屋まめ田ゝおちよ白滝の水、
と申て御ゝきまハ女成のきさう彼ゞ心ゞゝしの滝らめとと感じ
終ハ帝かたして白花ひめを妻ゝ娶ゝ迄る帝ゝ御ゝ
ゝ天國乃御娘を召じゆふ長さ二尺六寸ゞ其後白滝一男を産て
三ゝ歳の円少ゝ成ゝゆひね仲衣にあくり遺骸を葬しきの東流
れ浮ゝ沢ゝ和て叢羽と成ゝ兵戦矣ゝ起ひまつゝ山地ゝ水わき
お今ゝ小ゝ沢ゝりて梅ゝ函ゝ郷ゝむ

下村

一竜尾旧迹

家記

桂氏天皇の皇子高系親王十四代安濃守三良貞衡ゞ
孫奉名氏良清綱ゝ始て熊谷尾の姓をかゝ名ゝ乗ゝ男武

久ゝ之ゝの代乃庄ゝと号し山田の庄ゝ居住ゝ孫の武弦一の谷
戦場ゝひよりゝ乃雄ゝを越ゝ沢武久案内者ゝ應諾
ゝ生年十七になる一子を伴ゝ是を熊尾太良[紙春]と云
大和乃譚をゝ[三良経長]ゝ
前久ゝ長具ゝと明ゝ

一太刀 一振長二尺七寸 大和さゝ[illegible]

一ゝ[illegible] 一流ひの丸

一兎并六良太刀

一ゝ[illegible] 一武蔵坊弁慶長刀 太刀 長四尺三寸

一[illegible] 一腕一脇わり七寸武久ゝ[illegible]

一代ゝ[illegible]ゝの太刀ハ関白秀吉ゝへ献ゝ

兵庫十景の題 扶桑名勝詩集ニ出ル

服梅早春　湊川清流　経島炉月
兵庫帰帆　福原旧都　布引飛瀑
廣田神社　和田岬松　武庫暮雪
生田晴嵐

須磨浦十景乃題目

若木櫻花　上野夏州　関屋間月
兵庫皈帆　後山帰樵　武庫晴雪
塩屋暮煙　須広寺鐘　一谷古戦
磯馴松風

福原三十三番観音札所

一　兵庫　菜仙寺
二　東尻池村　法立寺
三　駒ヶ林　海泉寺
四　駒ヶ林村　慈眼菴
五　駒ヶ林村　松源菴
六　同　松月菴
七　野田村　正福寺
八　東スミ村　浄徳寺
九　スミ寺　福祥寺
十　大手　勝福寺
十一　板宿村　禅昌寺
十二　湊田村　妙示寺
十三　長田村　福壽菴
十四　夢ノ村　長福寺
十五　烏原　願成寺
十六　石井村　灵善寺
十七　平ノ村　東福寺
十八　荒田村　宝池院
十九　坂本村　龍泉寺
二十　花熊村　福徳寺
廿一　兵庫　極示寺
廿二　兵庫ヒノミヤ　神宮寺
廿三　兵庫　西光寺
廿四　恵林寺
廿五　兵庫　法界寺
廿六　同　来迎寺
廿七　同　金光寺
廿八　同　福嚴寺
廿九　同　福海寺
三十　同　永福寺

世一 兵庫 能福寺

兵庫今法方位法

一ちまん　六丁
一いくさ、　九六丁
一布引滝、　一リ余
一いなり後右ちかまる　三リ
一まやま、　二リす
一こうげん、　三リ
一あしや、　四リ
一あのこや、こ決　五リ

一ちまん、　十九リ余
一行せ、　九十二リ
一いわ戸、　百卓二リ

世二 真福寺

一ちまん、　二リ余
一こまよりたく、　二丁
一ちまのこうこ、　五丁
一おぐさ、　九丁
一あぐ、　一リ
一すまでく、　一リま
一二のこま　二リ
さくら川、

一あくま、こ決　九リ
一三本、　七リ
一ひめじく、　十四リ

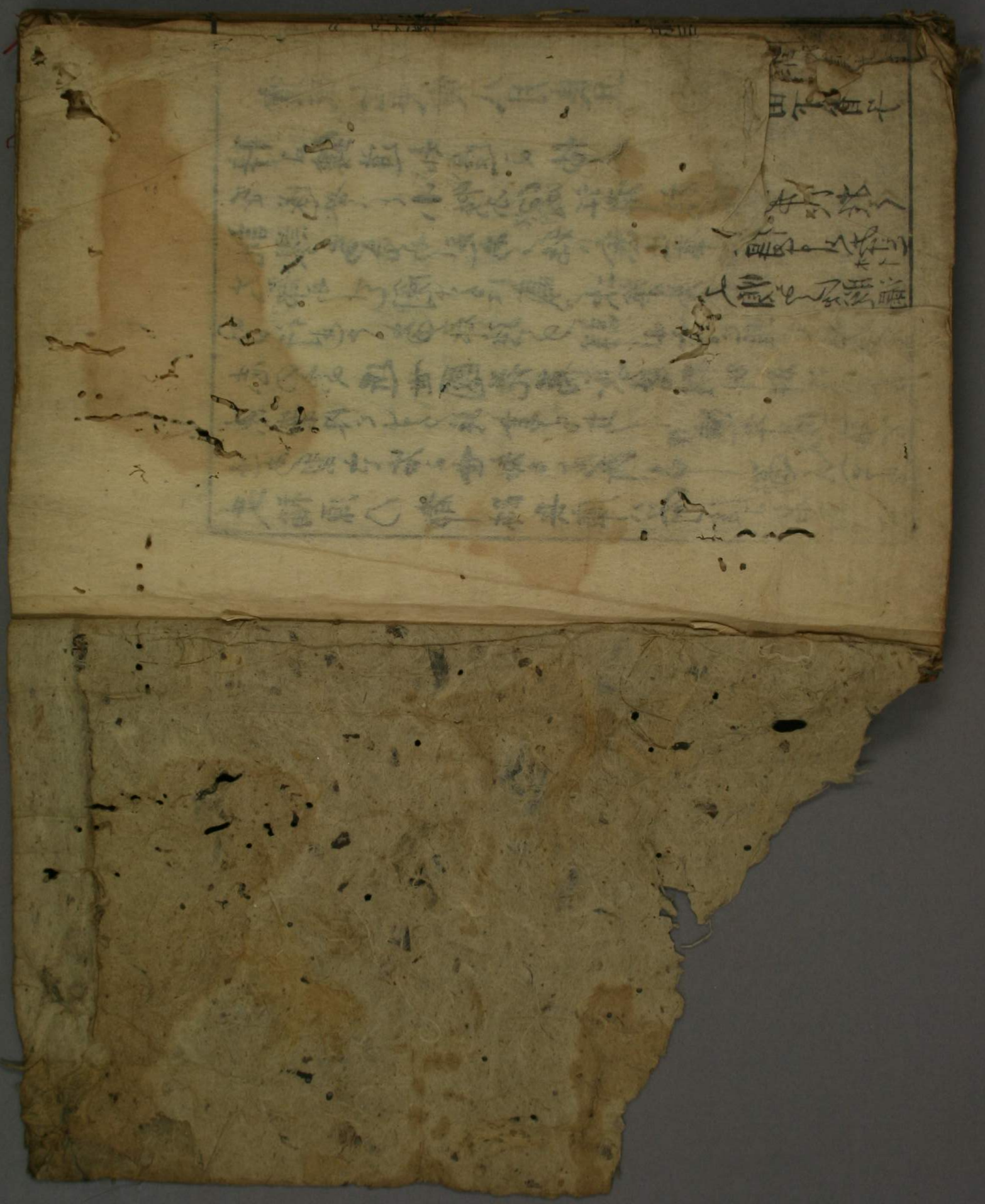
世三 [illegible]

一丹生宮、村くらかり　三リ
一ありま、月く　七リ
一三田、　七リ
一こうの、　七リ
一尼崎、　七リ
一ひぐき、　八リ
一ひ坂、　十リ

一むぢのこ、　九リ
一とも、　五十リ
一こうま、　九十リ
一下の宮、　百三十五リ
一ふくま、　百三十八リ
一こうこ、　二百九リ

迹あ梨さ右ハ世知る名所多ク雨といへ[illegible]
宋業伝こまる法書も出ル　僕連年成む[illegible]
志の[illegible]近世國花萬葉集摂州群法の書
行ま[illegible]書郡誌の詳ハ古ハ難し初め
大部ハ[illegible]免するに惑ふ次第[illegible]又順ハ脱漏
訛謬[illegible]ハ[illegible]
を遂ぶ[illegible]小候ふ江都族寓の[illegible]
梓ハ鏤道知[illegible]ハ[illegible]

寶永七庚寅八月良旦　植田下省子



門下番代